

こちらでは feynmp の使い方について解説していこう。feynmp は tikz-feynhand と違って、一つの tex ファイルから一つのダイアグラムを eps 形式で作ることのできるプログラムであり、残念ながら本文の tex コードと一緒に feynmp 向けのコードを書くことはできない。これが残念な点ではあるものの、tikz-feynhand にはできないようなダイアグラム表現が可能であり、本格的なダイアグラムを作ろうと思ったらこちらを使わなければならないだろうと思う。

## 1 基本的な使い方

簡単なダイアグラムを書くときには、こちらで座標を指定する必要はない。始点を fmleft, 終点を fmright というコマンドで指定する。また、伝染は fmf コマンドで指定する。中間点は fmf の中で適当に宣言すれば良い。例えば二体相互作用では

```
\begin{fmffile}{simple}
\begin{fmfgraph}(40,25)
  % Note that the size is given in normal parentheses
  % instead of curly brackets.
  % Define external vertices from bottom to top
  \fmfleft{i1,i2}
  \fmfright{o1,o2}
  \fmf{fermion}{i1,v1,o1}
  \fmf{fermion}{i2,v2,o2}
  \fmf{photon}{v1,v2}
\end{fmfgraph}
\end{fmffile}
```